
叶わない恋で10のお題

黒猫。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

叶わない恋で10のお題

【Nコード】

N9787P

【作者名】

黒猫。

【あらすじ】

叶う恋が正しい訳じゃない

叶わない恋が正しい訳じゃない

ある意味私の恋は、叶っているのかもしれない

幸せ、って、なんですか

物知りの指輪

橙色の間接照明が、白いシートに反射している

それに照らされた樹哉^{たつや}の顔は、いつもより心なしか暖かく見えた

「ねえ、それじゃあなんで、僕の隣にいるの」

うつ伏せで腕を立てて、煙草をふかしながら樹哉はそう問うた

隣では、煙草の匂いがはじまる

あの人とは違う、煙草の香り

真美はぼうつと、自分の右手を照明にかざした

「そうねえ」

薬指に嵌めた指輪が照明に反射する

「あなたが、樹哉だから」

そう、樹哉だから

それ以上でも、それ以下でもない

あなたが、樹哉だから

「意味分かんないんだけど」

隣で、煙草をくわえた口元に笑みが浮かぶ
灰皿に灰を落として、此方の方を向いた

「そうね、いいのよ」

私は左手で指輪を弄りながら、目もあわせず、言う

意味なんて、分からなくて良い

知らなくて良い

（ほんとうは只、あなたが、同じ文字を名前に冠していて、どことなくあの人に似ているから興味を持っただけ、なんて、残酷すぎて言えない）

「分からないなあ、真美さんは」

困ったように笑う樹哉に申し訳なさを感じながら、それでも目線は指輪から外さなかった

買って1年も経っていないのにぼろぼろになってしまっただけ色も剥げてしまった指輪

安物で、だけれど、この指輪は全てを知っているから、棄てること
ができていない

あの人の声も仕草も表情も、その肌も全て

「なに、考えているの」

唐突に掛けられた声に思考を遮断させられる

真美はかざしていた手を下ろした

何時の間に吸い終わったのか、それとも途中で火を消したのかは分からないが、いつの間にか樹哉はベッドの中に潜っている

「樹紀たつきさんのこと」

ひとこと、そう言えば

「そっか、相変わらず一途だね」

そう常套句を残して樹哉は黙ってしまった

私は、この人のこんな所が気に入っているのだと分かっている
余計な詮索はしない、咎めない
全て話したって、大丈夫な人なのだ、この人は
そんな、都合の好い関係

ふと、腕を引っ張られて抱き寄せられる

「いいの、今僕の隣にいて」

少し、トーンの低くなった声
妬いているのか、そうでないのかは私には分からない

「樹紀さん、真美さんのこと待ってるかもよ」

そう続けて、また黙る

こんなところは、愛おしい
今まで悶々と考えていたことは、全て遮られてしまった

「私は、そんな立場ではないのよ」

暫くして出た自分の声は意外にも落ち着いていて、その意外さの動
揺を隠すために背中に手を回した
手を回せば、途端に愛おしくなる
心はここには無いのに
あの人にとっての私も、そんなものなのだろうか

「ね、もういいでしょう」

これ以上、余計なことを言わないように

これ以上、現実を見ないように

今度は、自分でも恐ろしいほどの甘い声を出して、さりげなく、わざとらしく、足を絡めた

「いつもずるいね、真美さんは」

樹哉はそう言って弱々しく笑って、真美の首筋に顔を埋めた

01・貴方の隣にいるのは私ではなくて

(でも、私の隣にいるのも貴方ではなくて)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9787p/>

叶わない恋で10のお題

2011年1月9日02時22分発行